〈カイコのてみつ〉

～～お力イコさんを育ててみて～～





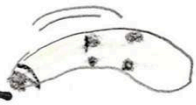






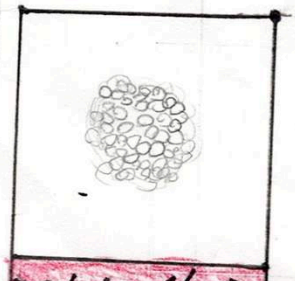
日付 2026年8月16日

かいこの一生

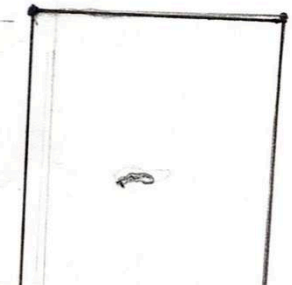




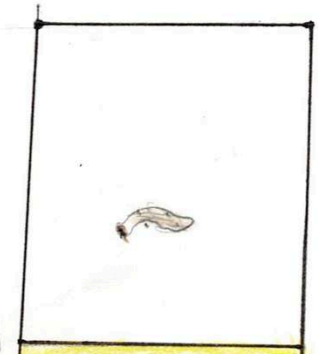
かいこが



たまご（1回）



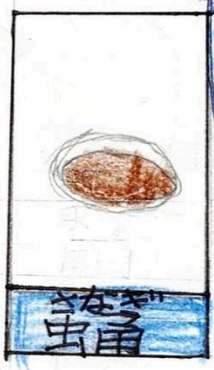
かいこ（1齢）



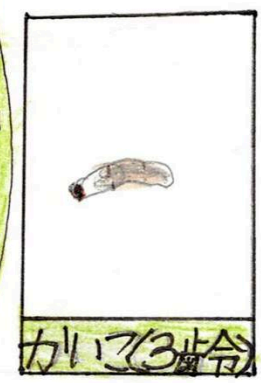
かいこ（2齢）



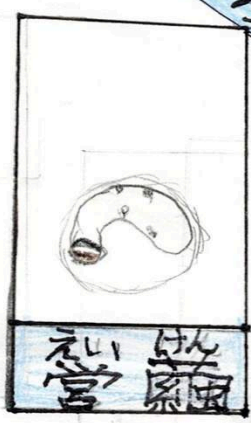
まゆ（蛹）



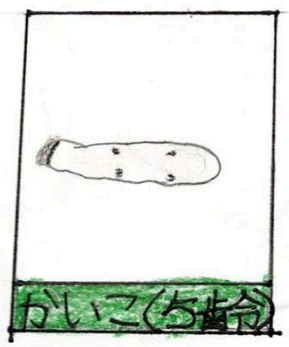
さなぎ（蛹）



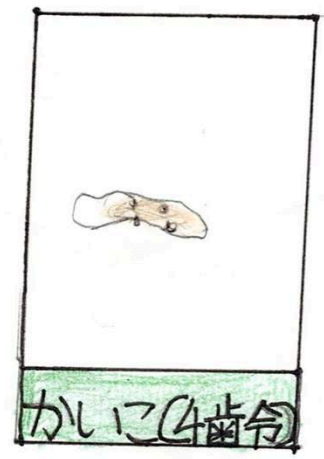
かいこ（3齢）



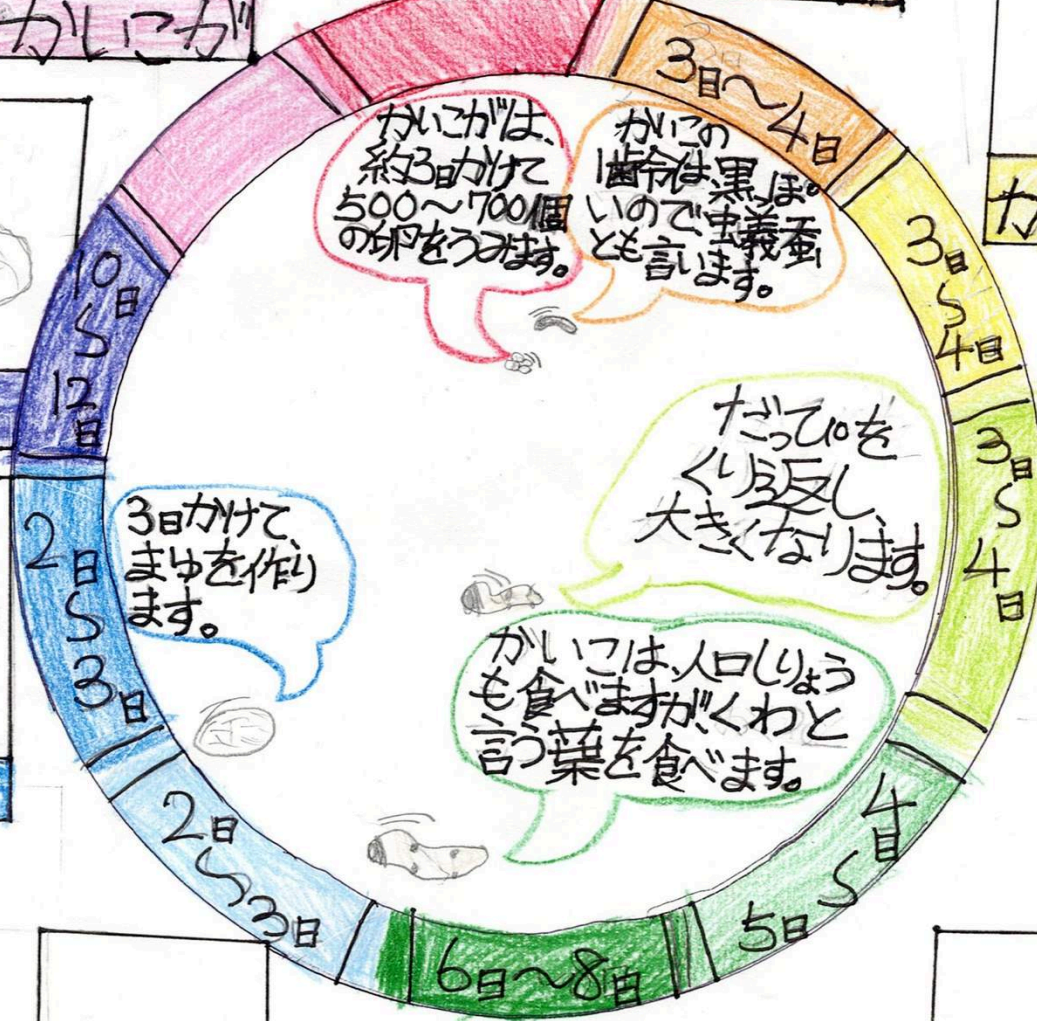
えい（蛹）



かいこ（5齢）

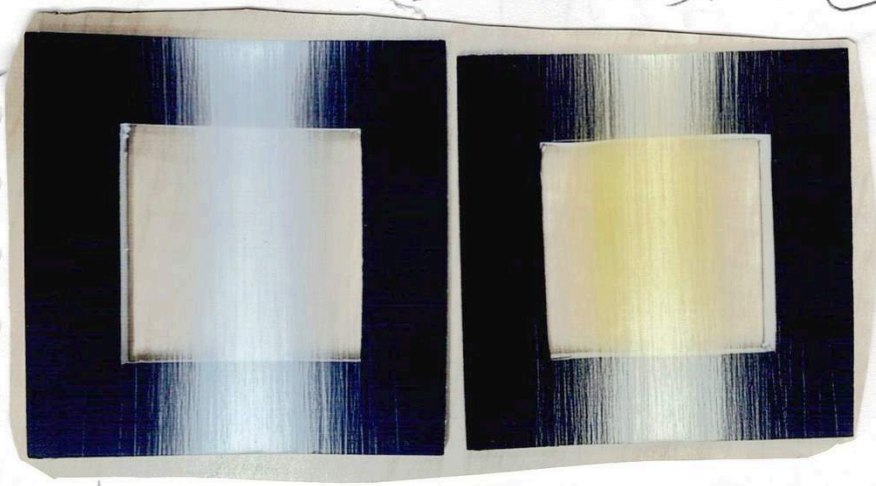


かいこ（4齢）

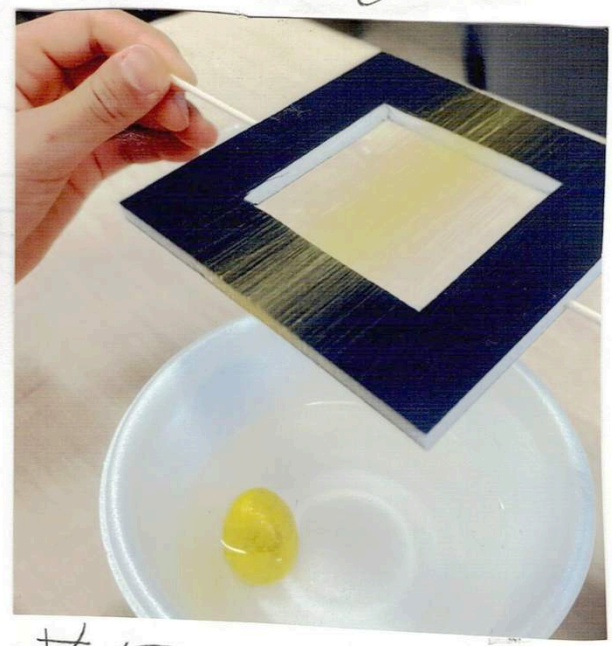


〈勉強しようと思ったきっかけ〉

・静岡県いわた市のこん虫館の「カイコのまゆ教室」というイベントにもうしこんで、カイコのまゆをまき取るという体けんをしました。



まき取ったカイコのまゆ↑

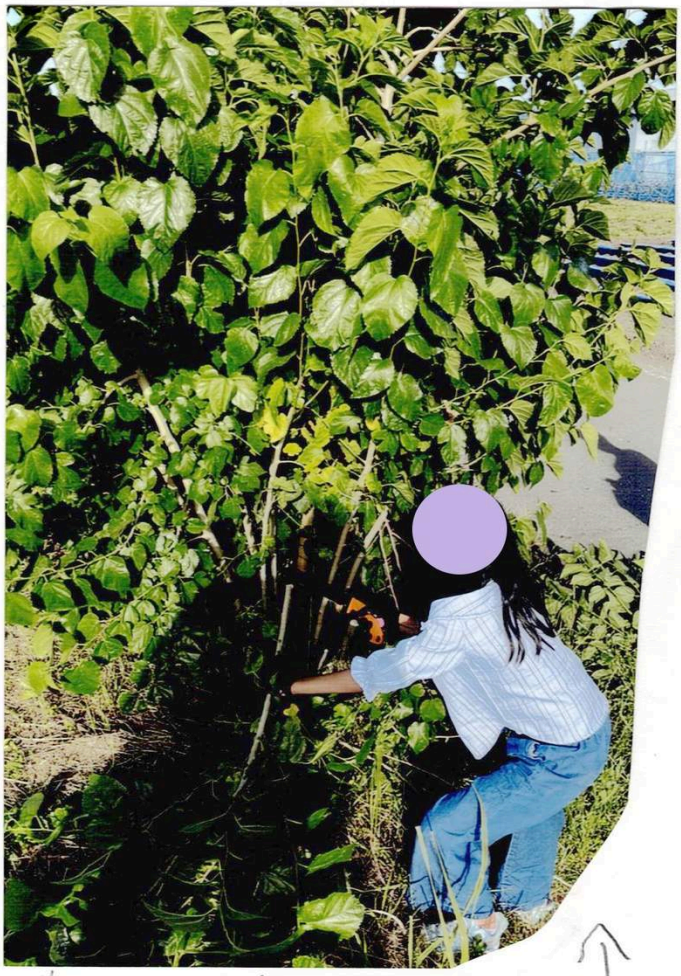


黄色のまゆから↑
まき取っている所



黄色と白のまゆを
まき取ったあと、
まゆから出てきた
さなぎ↓

そこでカイコがもらえると聞いたので、5ひきもらって帰りました。カイコのえさを調べたらクワという葉を食べることが分かりました。ミルクメイドという人口しょうも食べますがわたしは、クワで育てたいと思い、親せきの所に取りに行きました。



クワの葉を取っている所



まだかれないようにバケツに入れておいたクワの葉



ミルクメイトを食べて
いるカイコ↑

この日寺ろれいよう虫
家に来たカイコ
5ひき↓

ここから
5ひき
もらった



クワで育てているカイコ↑



ろれいよう虫は
このぐらいの大きさ
←
(子どもの手)

クワを食べて大きくなるうれいよう虫

↓





だっぴ前の眠(みん)

だっぴをする前に葉を食べずにかたまっているじょうたいを「眠」といいます。

↓

だっぴした後



だっぴのぬけがらは食べないよ

3れいと4れいの
大きさのちがい



4れいと5れいの
大きさのちがい



こうして、みんのじょうたいのカイコとみんではないカイコを分けた。→





←さいごのだっぴ。
ちれいはう虫になった。
(しゅう)
終れいはう虫
ともいう。

えさとうんちは
一日2回朝と夜
にかえました。



ちれいは、大きいので、
2ひきと3びきに
分けました。
↵





ちれい(糸冬れいのよう虫になった。ちれいは、
一生の中で一番よく食べる時なので、
夜にあげたクワが朝にはもうなくなっている

ちれいよう虫は
このぐらいの
大きさ →

(大人の手)







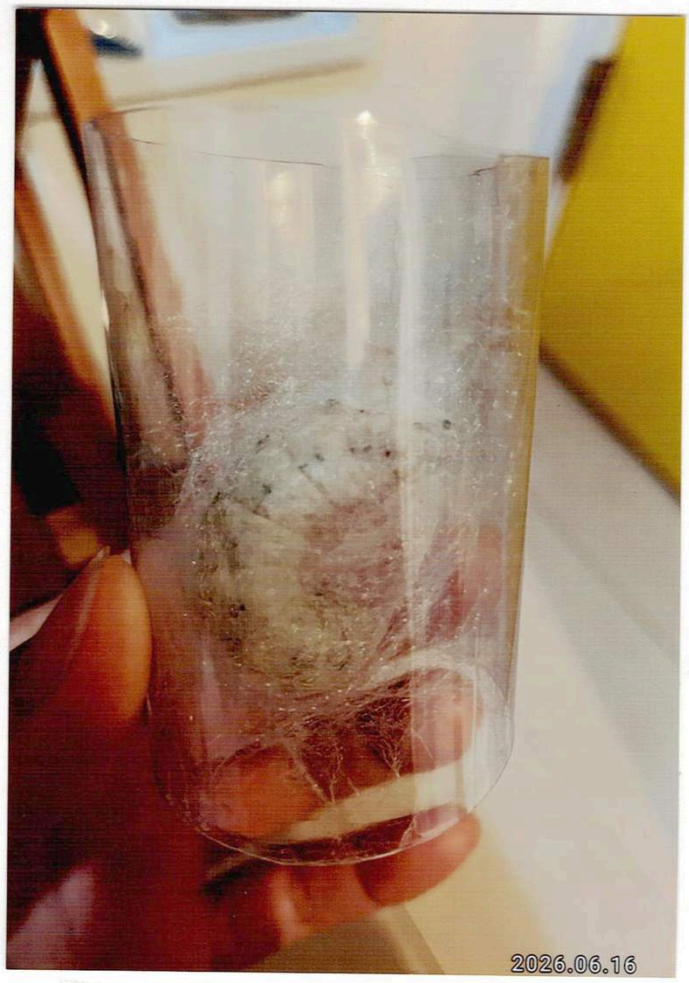
カイコが糸をはき始めた。

トイレットペーパーのしんとペットボトルを使って「まぶし」を作った。

「まぶし」とは、カイコがさなぎになるために
まゆを作る部屋のようにしきられたわくの
ことです。

トイレットペーパーのしんのほうがカイコがまゆを作りやすいと聞いたが、差見とうがしたいので、3つをペットボトルに、2つをトイレットペーパーのしんに入れた。



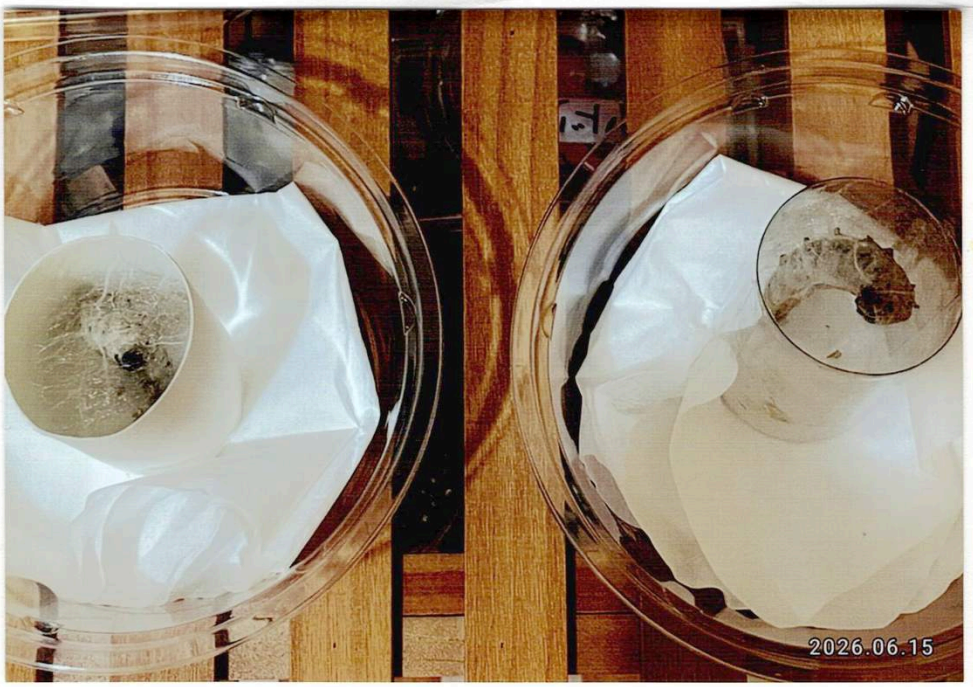


まぶしの中でまゆを作り始めた。

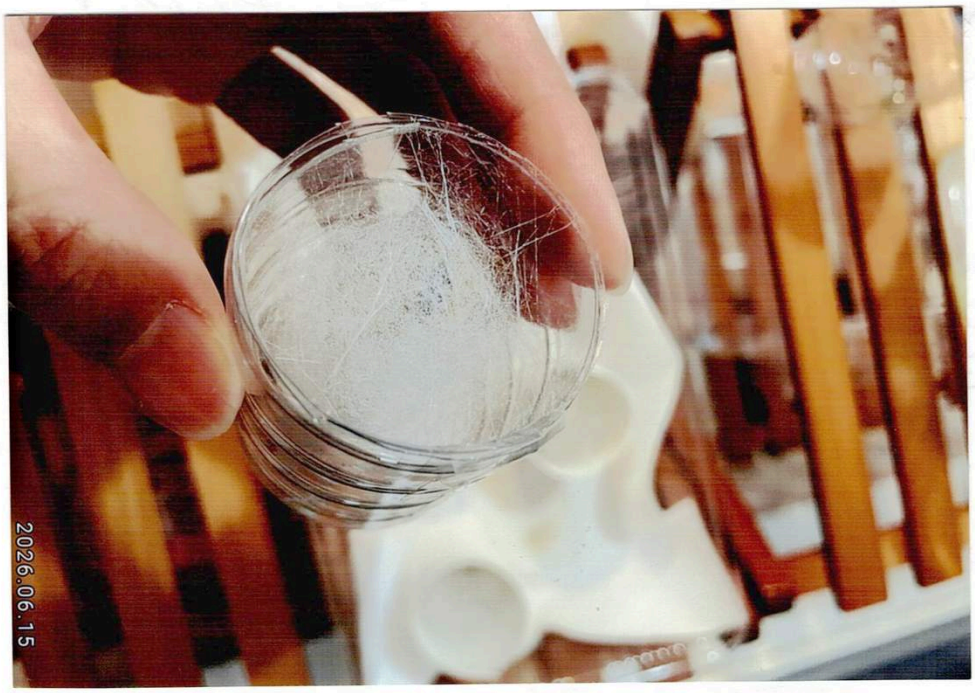
カイコがおしっこをするのは一生のうち2回。
まゆを作る時と成虫になってまゆから出てきた時です。

まゆを作る時は体をそらしながら、作っていることが分かった。

だんだんとまゆがごまくなってきた









まゆが完成！



まゆはこのぐらいの
大きさ
（大人の手）



まゆの中は
こうなっていた。

数日時間後



だっぴをして、
クリーム色のさなぎ
になった。

そして数日時間後



色がかわってきた。

さらに数日時間後



茶色になった。

十日後



もうすぐ羽化するかも…



次の日
羽化した！

かわいい、カイコガが
たん生した。

全体的に毛が生え
ていてモフモフしている。



まゆから出て来る
時、一生で2回目の
おしっこをした。

それを「ガにょう」
という。

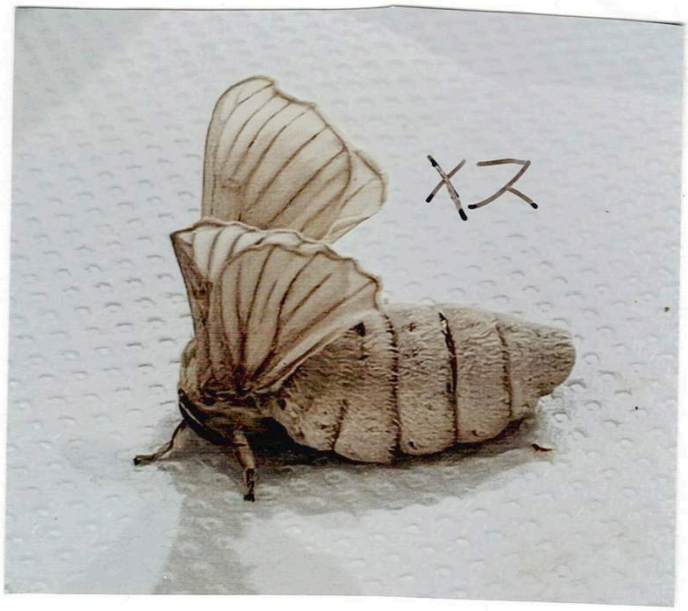


本当なら、口から
コクナーゼという
液体こうそを出し、
まゆの糸同士をく。
つけているセリシン
をとかし、豆負で
糸をおし分けて
出てきます。



成虫はこのぐらい
の大きさ
↓（子どもの手）

成虫は口がたいか
してないので、エサも
水も一切口にしま
せん。（食べるための口）
羽はあるが、体が重く
たいかしているので、
飛べません。



↑メスのおなかはぷっくりしている。



↑オスが4ひき
メスが1ひき
うまれた。

オスの箱にメスを入れたらオスたちが急に羽をばたつかせた。

一ひきのオスとメスがおしりをくっつけて、こうびを始めた。

自分たちではなれないので、1〜2時間たったら人間の手ではなしてあげる。それを「害り愛」という。
かつあい



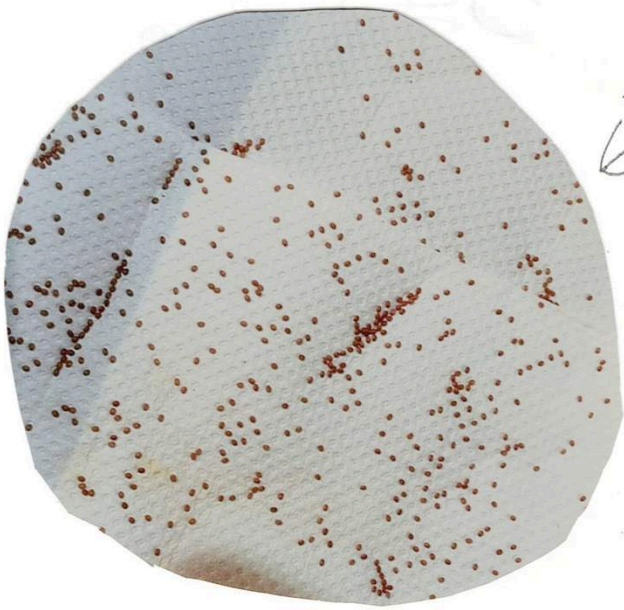


こうびを終えるとすぐ産卵した。
さんらん

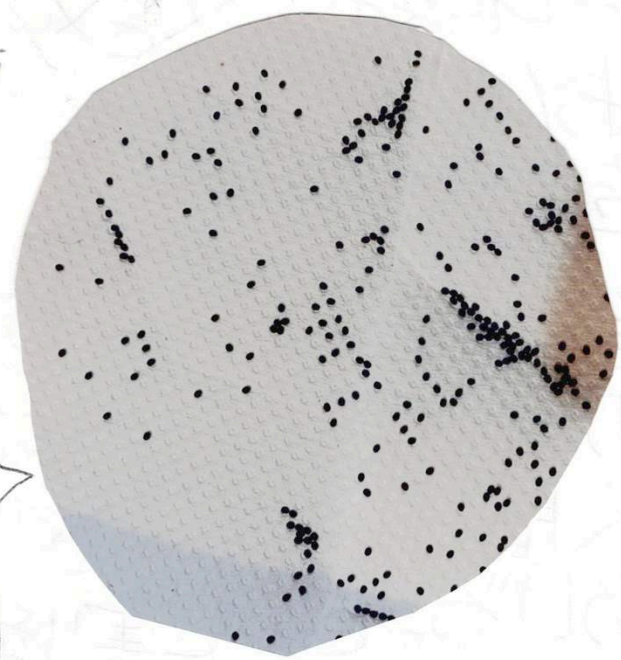
一回に300～500この卵を産む。



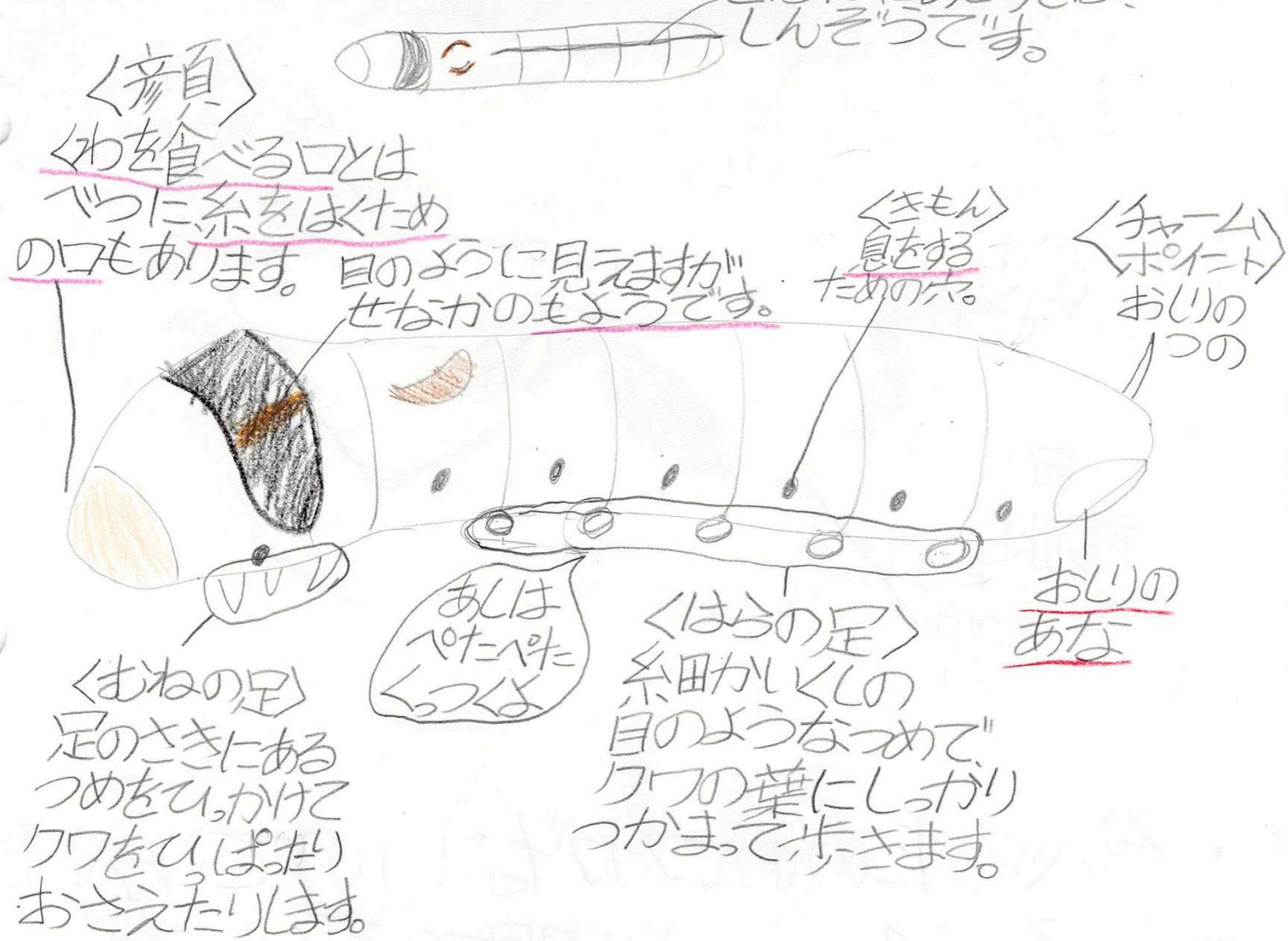
一日後



三日後



黒色にへんかした卵は「休眠卵」といい、冬をきゅうみんらん
こして春に産まれる卵です。



・目のように見える部分は、もようで「かんじょうもん」といい、てきをいかくして、自分をより大きく見せるためです。

・本当の目は、左右に6こずつあって合わせて12こあり「単眼(たんがん)」です。「単眼」は形や色は見えず明るいか暗いかがわかるていどです。成虫になるとたくさんの小眼が集まった「複眼(ふくがん)」にかわります。

・頭に近い部分にある3対6本の足は成虫の足です。

・カイコのチャームポイントはおしりのつので今だに何の役に立っているのかなぞのじょうたいです。

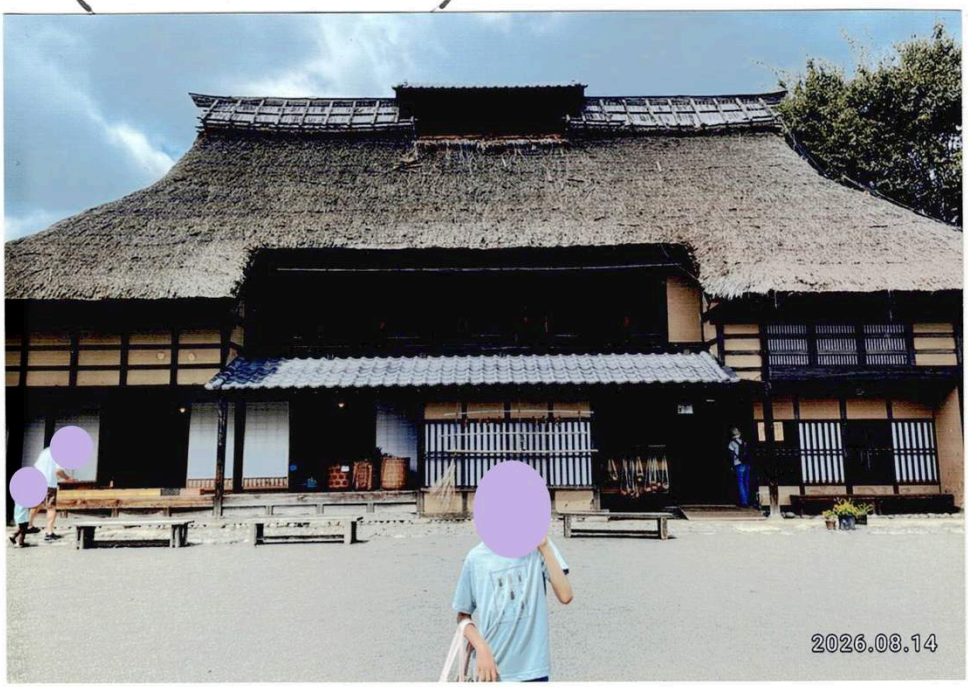


・食べるための口がないので、成虫になると1~2週間で死んでしまいます。(まゆをとかすえきをはき出すための口はきのうしています。)

・羽羽はあるけど飛べません。パタパタするていどです。

・人間が完全にかいならした虫であり野生では、生きられません。

〈群馬県立ぐんま昆虫の森〉



ぐんま昆虫の森にある「かやぶき民家」で生体を見学してきた。

このようにしいくされていた。





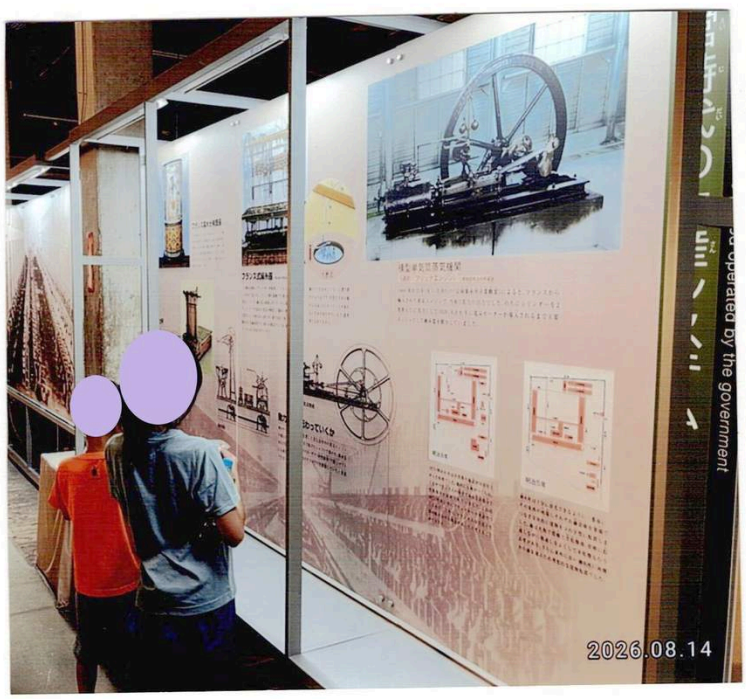


〈世界遺産 富岡製糸場〉



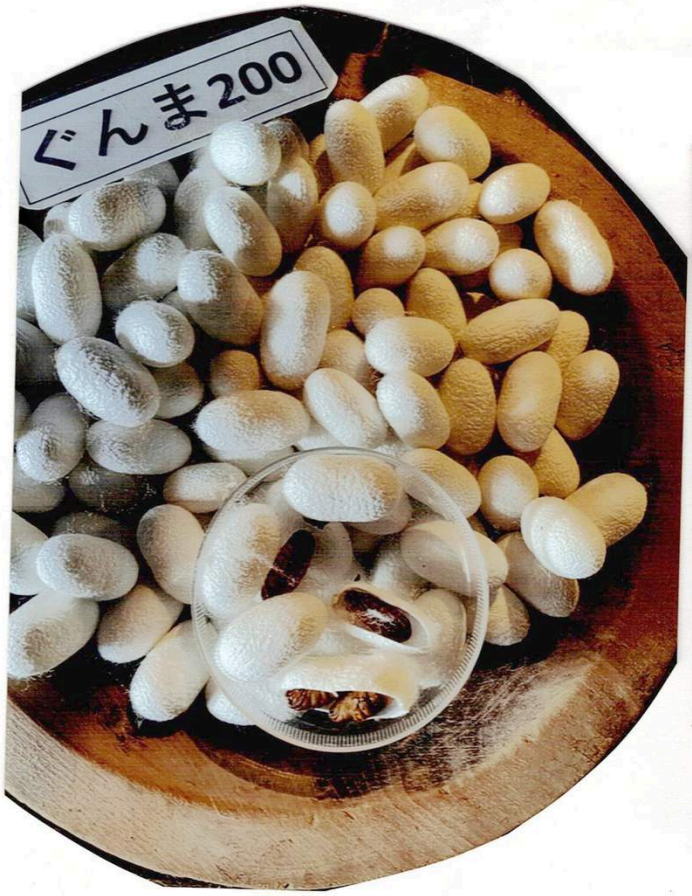
富岡製糸場にも行ってきました。富岡製糸場は、カイコのまゆから「生糸」(シルク)を大量に引き出すための工場です。

たくさんの繭をためておく所や生糸を引き出す機械、クワ畑もありました。



てんじ物をゆっくり見ました。



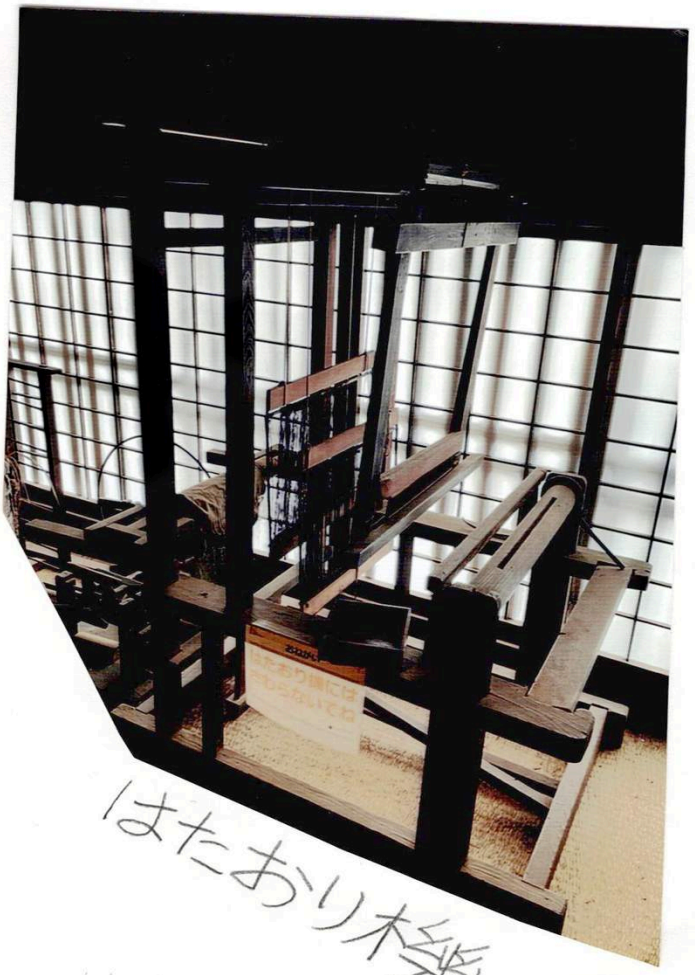




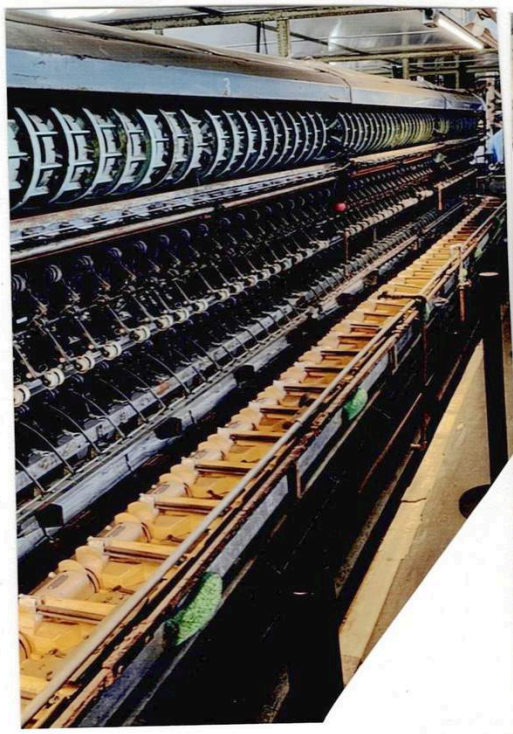
まゆは品種やクワの成分で色がかわる。

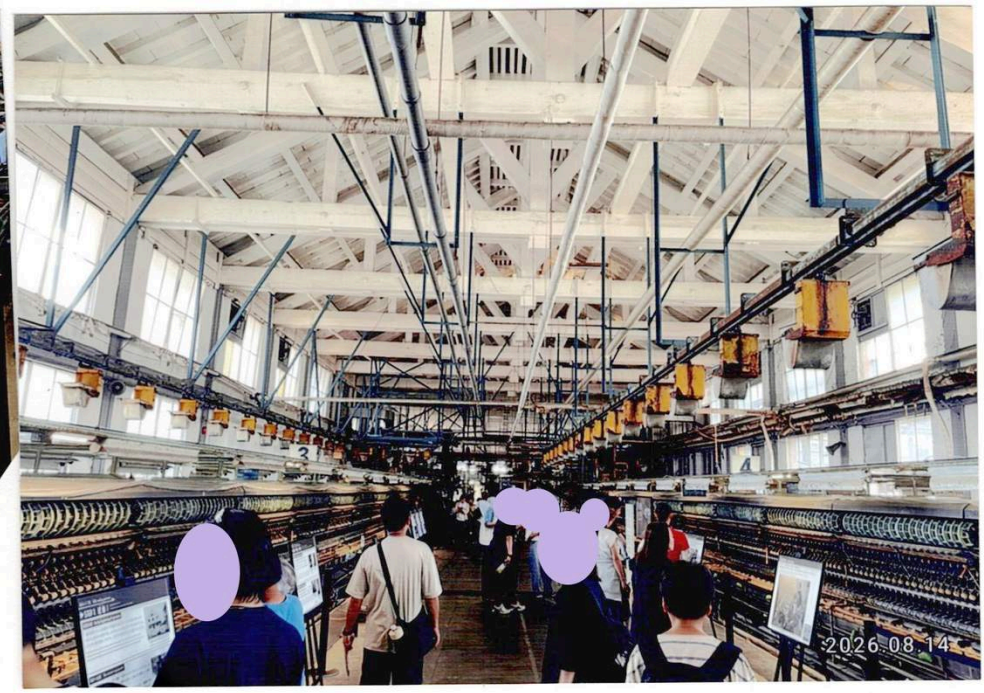


ミルクのハンカチを草木そめした物が置いてあった。



はたおり木機





このような機械を使って生糸を引き出していたようです。





シルクたんぱくが入ったクッキーも売ってました。あまくておいしかった。



シルクが入ったタオルです。

〈育ててみて分かったこと〉

・カイコはクワしか食べない。
(クワの成分が入った人口しりょうも良い)

・よう虫の時に成虫の足がある。

・一生の中で2回しかおしっこをしない。

・糸をはいの時にたくさん食べる。

・成虫は口がない。

・成虫は羽はあるが飛べない。

・成虫になった日寺にすぐにこうびをし、卵を300~500こ産む。

カイコについて学んだ感想

・繭は白色のほかに黄色、オレンジ色、ピンク色などがあることを知り、白色だけだと思っていたので、おどろきました。

・幼令から5齢令まで体重の変化が約1万倍ということを知り、びっくりしました。

・繭でできたせい品は高級なシルクせい品だけでなく繭の形をそのまま使ったけしょう品やスキンケア用品もあることを知りました。

・だっぴ前の目民の木美子がものすごくかわいかったです。

・5000~6000年かけて品種かいりょうをくり返し人間が育てやすいようにして完全に野生で生きられなくなったことは人間は勝手だなと思いましたが人間に100%守ってもらうという生き方をしているカイコはカイコでかしこいなと思いました。

カイコを育ててみてとてもおカイコさんのかわいさを知れたので来年もまたおカイコさんを育てたいです。

〈おせわになった場所〉

・磐田市竜洋昆虫自然観察公園
・群馬県立ぐんま昆虫の森
・富岡製糸場